

授業科目	看護学概論	単位数	1	時間数	30		
担当者名	川上 佐代	実務経験	臨床看護実践・教育・看護管理	学年	1	開講学期	1
科目目標	看護を志す初学者として、看護とは何かを学び、看護の対象の理解を深めるとともに、看護職者が実践する看護とは、どのような活動なのか、その機能と役割について学ぶ						
授業計画・授業内容							
1. 看護とは		11.12. 国民の健康状態と生活					
2.3.4. 看護の歴史		1) 国民の健康の全体像について					
5.6. 看護の提供者		2) 人々の生活と健康に関する統計データ					
7.8. 看護の対象の理解		13. 看護の提供の仕組み					
1) 人間のこころとからだ		1) サービスとしての看護と看護サービス提供の場					
2) 生活者としての人間		2) 医療安全と医療の質保証					
9.10. 健康のとらえ方		3) 広がる看護の活動領域					
1) 健康とはなにか		14. 看護における倫理					
2) 健康な状態、健康でない状態		15. 試験					
教科書	系統別看護学講座 専門分野 看護学概論 (医学書院) 看護覚え書 -看護であること看護でないこと- (現代社) 看護の基本となるもの (日本看護協会出版社)						
参考書	国民衛生の動向 (厚生統計出版会)						
授業方法	講義、グループワーク、討議						
評価方法	筆記試験、演習参加度、演習成果で総合評価						
備考							

授業科目	看護技術論	単位数	1	時間数	15		
担当者名	田中 清美	実務経験	臨床看護実践・教育	学年	1	開講学期	1
科目目標	看護技術を学ぶ必要性について理解し、看護をするうえで欠かせない人間関係を形成するためのコミュニケーション技術を修得する						
授業計画・授業内容							
1. 技術とは		4. コミュニケーションの構成要素と成立過程、プロセスレコード					
看護技術の特徴、看護技術の範囲							
2. 看護技術を適切に実践するための要素		5. 関係構築のためのコミュニケーション					
看護技術の発展と修得のために		6. 効果的なコミュニケーションの実際					
3. コミュニケーションの意義と目的		7. コミュニケーション障害のある人への対応					
		8. 試験					
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術 I (医学書院)						
参考書							
授業方法	講義、グループワーク						
評価方法	筆記試験						
備考							

授業科目	看護診断と看護過程	単位数	1	時間数	30		
担当者名	内村 由美子	実務経験	教育	学年	1	開講学期	2
科目目標	対象の持つ健康上の問題を明らかにして、その健康問題を解決するための系統的で意図的な思考過程としての看護の展開方法を理解する						
授業計画・授業内容							
1. 看護の基盤となる考え方				9～13. 看護実践過程（演習含む）			
1) 看護の目的と機能 2) 看護過程とは				1) 看護計画			
3) 看護過程の基盤となる考え方				(1) 目標・成果・成果指標			
(1) 問題解決過程 (2) クリティカルシンキング				(2) 介入計画 (O-P、C-P、E-P)			
(3) リフレクション (4) 問題志向型システム				2) 実施・評価			
(5) 臨床判断				(1) SOAP 形式			
2. 看護モデルとアセスメントの枠組み				(2) 介入計画に沿った実施（演習）			
1) ヘンダーソン 2) ロイ 3) オレム				(3) 目標・成果の達成度評価			
4) ゴードンの11の機能的健康パターン				(4) 達成度に影響を与えた因子			
3～8. 看護診断過程（演習含む）				(5) 追加・修正			
1) 情報収集・アセスメント				14. 医療における記録			
(1) 情報の種類、情報源、情報収集の方法				15. 試験			
(2) アセスメントの種類・時期・方法							
2) 看護診断							
(1) 看護診断の種類（問題焦点型、リスク型、ヘルスプロモーション型、シンドローム型）、共同問題							
(2) 看護診断の照合・記述方法							
(3) 優先順位の決定							
3) 関連図							
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術 I (医学書院) 看護がみえる vol.4 看護過程 (メディックメディア)						
参考書	看護診断ハンドブック (医学書院) 検査値ハンドブック (成美社)						
授業方法	講義、グループワーク、事例を用いた演習						
評価方法	筆記試験 80%・課題 20%で総合評価						
備考	紙上事例を用いて看護診断と看護過程を学習する						

授業科目	清潔・衣生活の援助技術			単位数	1	時間数	30
担当者名	藤井 梨恵	実務経験	臨床看護実践・教育	学年	1	開講学期	1-2
科目目標	1. 清潔・衣生活の意義や目的、援助におけるアセスメントの視点を理解する 2. 清潔・衣生活の援助に必要な基本的知識を理解する 3. 清潔・衣生活に関する基本的な援助の方法を習得する						
授業計画・授業内容							
1. 清潔の援助の基礎知識 1) 皮膚・粘膜の構造と機能 2) 清潔援助の効果 3) 患者の状態に応じた援助の決定と留意点 2. 衣生活の援助の基礎知識 1) 衣服を用いることの意義 2) 熱産生と熱放散、衣服気候 3) 衣生活に関するニーズのアセスメント 4) 衣生活の援助の実際 3～5. 全身清拭・寝衣交換 1) 援助の基礎知識 2) 臥床患者の全身清拭・寝衣交換の実際（演習） 6.7. 手浴・足浴 1) 援助の基礎知識 2) 手浴・足浴の実際（演習） 8～10. 洗髪 1) 援助の基礎知識 2) 洗髪器を使用した洗髪の実際（演習） 11. 入浴、シャワー浴 1) 援助の基礎知識 12. 口腔ケア・整容 1) 口腔内の構造と機能 2) 口腔ケア、整容の方法 13.14. 臥床患者の全身清拭・寝衣交換（技術チェック） 15. 試験							
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 vol.2 臨床看護技術（メディックメディア）						
参考書							
授業方法	講義、デモンストレーション、演習、技術チェック						
評価方法	筆記試験						
備考	授業以外の空き時間を活用して、グループ・個人で話し合いや演習を行い、技術を習得できるよう、主体的かつ計画的に進めていきましょう						

授業科目	フィジカルアセスメント			単位数	1	時間数	30
担当者名	石原 聡子	実務経験	臨床看護実践・教育	学年	1	開講学期	1
科目目標	患者を正確に診るために必要な身体査定法について、科学的根拠に基づいて習得する						
授業計画・授業内容							
<ol style="list-style-type: none"> 1. ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメント 2. 正しいバイタルサイン測定の方法と留意点 3. バイタルサイン測定の手順と使用物品の特性 4. 5. バイタルサイン測定の実際 (体温・呼吸・脈拍・SpO²・血圧) 6. 技術チェック：バイタルサイン測定 7. フィジカルアセスメントに必要な技術、身体計測 8. 呼吸器系のフィジカルアセスメント 9. 演習：呼吸器系のフィジカルアセスメントの実際 10. 循環器系のフィジカルアセスメント 11. 演習：循環器系のフィジカルアセスメントの実際 12. 乳房・腋窩、腹部のフィジカルアセスメント 13. 演習：腹部のフィジカルアセスメントの実際 14. 神経系のフィジカルアセスメント 頭頸部と感覚器 (眼・鼻・口) のフィジカルアセスメント 15. 筋・骨格系のフィジカルアセスメント 16. 試験 							
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術 I (医学書院) 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント (メディックメディア)						
参考書							
授業方法	講義、デモンストレーション、演習、技術チェック						
評価方法	筆記試験						
備考							

授業科目	成人看護学概論			単位数	1	時間数	30
担当者名	小田川 良子	実務経験	臨床看護実践・教育	学年	1	開講学期	2
科目目標	1. 成人期にある対象の特徴を理解する 2. 成人期にみられる健康障害を理解する 3. 成人期にある対象の看護に有効な概念について理解する						
授業計画・授業内容							
1. 成人の理解、働いて生活を営むこと 2. 成人をとりまく環境と生活からみた健康 3. 生活と健康をまもりはぐくむシステム 4～6. 成人への看護アプローチの基本 7～13. 成人の健康レベルや状態に対応した看護 1) ヘルスプロモーションと看護 2) 健康をおびやかす要因と看護 3) 健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護 4) 慢性病とともに生きる人を支える看護 5) 障害がある人とリハビリテーション 6) 人生最期のときにおける医療の現状 14. さまざまな健康レベルにある人の継続的な移行支援 15. 新たな治療法、先端医療と看護 16. 試験							
教科書	系統別看護学講座 専門分野 成人看護学 成人看護学総論 (医学書院)						
参考書	国民衛生の動向 (厚生統計出版会)						
授業方法	講義、グループワーク、討議						
評価方法	筆記試験						
備考							

授業科目	与薬に伴う援助技術		単位数	1	時間数	30	
担当者名	伊東 好子	実務経験	臨床看護実践・教育	学年	2	開講学期	1
科目目標	1. 薬物療法の意義・目的が理解する 2. 薬物療法を受ける患者に必要な援助の方法を習得する 3. 安全に与薬を行うシステムのあり方について理解する						
授業計画・授業内容							
1. 与薬に関する基礎知識 1) 剤形と投与経路 2) 法律と管理 3) 看護師の責任と役割 2.3. 与薬の適応と原則 1) 誤薬・誤認防止 2) 経口・口腔内与薬 3) 吸入 4) 点眼 5) 点鼻 6) 塗布 7) 直腸内与薬法 4. 注射の適応と原則 1) 注射の種類と特徴 2) 物品の取り扱い 3) 安全対策 5.6. 演習：注射器の取り扱いと薬液の吸い上げ 7. 注射法の実際 1) 皮下注射 2) 皮内注射 3) 筋肉内注射 8.9. 演習：筋肉内注射の実際 10. 注射法の実際 1) 静脈内注射 2) 点滴静脈内注射の管理 11.12. 演習：点滴静脈内注射の実際 13. 注射法の実際 1) 中心静脈カテーテル 2) 輸液ポンプ・シリンジポンプ 14. 演習：輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱い 15. 輸血の管理 16. 試験							
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 基礎看護技術II (医学書院) 看護がみえる vol.1 基礎看護技術・vol.2 臨床看護技術 (メディックメディア)						
参考書							
授業方法	講義、デモンストレーション、演習						
評価方法	筆記試験・課題						
備考	解剖生理学、看護の中の物理、薬理学の知識が必要になりますので、予習復習をして講義に臨んでください。注射針を使用しますので事故を起こさないように十分留意して臨んでください。注射針の使用は安全のために教員のもとで行いますので、自主的に学生のみで時間外に演習を行うことはできません。						

授業科目	看護研究	単位数	1	時間数	15				
担当者名	高橋 慎也	実務経験	教育	学年	2	開講学期	2		
科目目標	看護研究の意義、研究の倫理、ならびに研究方法論についての理解を深め、物事について深く考えたり、調べたりすることの必要性を理解することで探求心を養い、研究的態度を身に付ける								
授業計画・授業内容									
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 1. 看護研究とは 看護研究のはじめ方 (リサーチクエスションの立て方) 2. 情報の探求と吟味 ―文献レビューとその方法― 3. 研究における倫理的配慮、研究デザイン 4. データの収集、データの分析 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 5. 研究計画書の作成、研究の伝え方 (学会発表・論文作成など) 6. ケースレポート・事例研究の進め方 7. 調査研究の進め方、文献研究・実践報告の進め方 8. 試験 </td> </tr> </table>								1. 看護研究とは 看護研究のはじめ方 (リサーチクエスションの立て方) 2. 情報の探求と吟味 ―文献レビューとその方法― 3. 研究における倫理的配慮、研究デザイン 4. データの収集、データの分析	5. 研究計画書の作成、研究の伝え方 (学会発表・論文作成など) 6. ケースレポート・事例研究の進め方 7. 調査研究の進め方、文献研究・実践報告の進め方 8. 試験
1. 看護研究とは 看護研究のはじめ方 (リサーチクエスションの立て方) 2. 情報の探求と吟味 ―文献レビューとその方法― 3. 研究における倫理的配慮、研究デザイン 4. データの収集、データの分析	5. 研究計画書の作成、研究の伝え方 (学会発表・論文作成など) 6. ケースレポート・事例研究の進め方 7. 調査研究の進め方、文献研究・実践報告の進め方 8. 試験								
教科書	系統看護学講座 別巻 看護研究 (医学書院)								
参考書	看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 (照林社)								
授業方法	講義、事例を用いた演習								
評価方法	筆記試験								
備考									

授業科目	統合看護技術	単位数	1	時間数	30		
担当者名	濱田 美由紀	実務経験	臨床看護実践・教育	学年	3	開講学期	1
科目目標	1. 看護技術経験のリフレクションを通して自己の課題を明確にする 2. 人工呼吸器を装着した神経筋難病患者的の全体像をとらえ、QOL を考慮しながら必要な看護技術を抽出し、模擬患者への看護技術を安全に実施する 3. 複数受け持ち時の時間管理と優先順位、報告の仕方が解り、チームの一員として求められる行動を理解する						
授業計画・授業内容							
1. 看護技術の科学的根拠とケアリング 2. 技術経験のリフレクション 3. 神経筋難病患者的の理解：DVD 視聴「生きることを選んで」 4. 神経筋難病患者的の看護過程と援助に基づく演習計画 5. 気管切開・人工呼吸器装着中の管理と援助 6. 気管切開・人工呼吸器管理のリスクマネジメント 7. エラー分析：気管切開・人工呼吸器管理 8. 人工呼吸器装着している神経筋難病患者的の技術練習 9. シミュレーション 人工呼吸器を装着している神経筋難病患者的の援助 ① 10. シミュレーション 人工呼吸器を装着している神経筋難病患者的の援助 ② 11. 人工呼吸器装着中の気管内吸引・口腔内吸引の技術試験 12. 複数受け持ち時の時間配分と優先順位の考え方 13. シミュレーション 多床室患者の対応 ① 14. シミュレーション 多床室患者の対応 ② 15. 演習のまとめ							
教科書	系統別看護学講座 基礎看護学 基礎看護技術 I・II (医学書院) 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 vol.2 臨床看護技術						
参考書	生命活動を支える看護技術、老年看護技術(神経筋難病患者的の看護)の講義資料						
授業方法	講義、デモンストレーション、グループワーク、演習						
評価方法	技術試験、小テスト、前演習に基づく記録、演習への参加状況により総合的に評価する						
備考	統合実習 II の神経筋難病患者的を対象とした看護実習の事前学習となる科目です 3 グループに分かれて、4 日間の集中講義・演習で実施します						